

トマト黄化葉巻病の感染拡大に注意してください

[現在の状況]

- ①平成18年、県内でトマト黄化葉巻病の発生を確認してから、これまでに、9市2町で発生を確認している。
- ②本病ウイルスを保毒したタバコナジラミ類は、冬期は促成トマトハウス内でのみ生息していたが、気温の上昇等により、5月以降は野外でも増殖できる状態である。
- ③抑制トマト栽培は育苗期になることから、苗への感染が懸念される。
- ④ハウス以外にも露地にトマトが作付けされており、新たな感染源となる可能性が高い。

[防除対策]

(促成栽培)

- ①タバコナジラミ類の防除を徹底する。栽培期間中の発生量が多いと、野外へ飛び出すタバコナジラミ類も多くなると考えられるので、栽培終期まで防除を行う(表1, 2)。なお、薬剤散布にあたっては、薬剤抵抗性の発達を抑えるため同一系統薬剤の連続散布は行わない。
- ②栽培終了時には、ハウスの蒸しこみを行い、タバコナジラミ類を確実に死滅させ、野外に出さないようにする。なお蒸しこみ作業は、トマトの株元を切断するか抜き取る等の処理を行ってハウスを密閉し、ハウス内温度が40℃を超える期間が5日以上となることを目安にする。

(抑制栽培)

- ①育苗時からタバコナジラミ類の防除を徹底する。特に苗の段階から感染すると被害が大きくなるので注意する。また定植時には、粒剤施用による防除を行う。

(共通)

- ①設置が可能な場合は、ハウスの開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置し、タバコナジラミ類のハウス内外への移動を防止する。なお0.4mm目合いの防虫ネットを設置した場合、通気性が低下し、灰色かび病等、病害の発生が助長されたり、ハウス内の温度が高くなったりすることが予想されるので、ダクト通風やサイドの開閉、遮光資材の利用等、温湿度管理には十分注意する。
- ②タバコナジラミ類は葉裏に寄生するため、薬液は下方から吹き上げるように散布する等、葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。
- ③雑草はタバコナジラミ類の生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。
- ④発病が認められた株は、感染源となるため早期に抜き取り、ビニール袋等に入れて密封し、株を腐熟化させてから処分する。

表1 タバココナジラミ類に対して有効とされる主な薬剤（平成19年5月23日現在）

薬剤名	有効成分名	コナジラミ類またはタバココナジラミ類 に対する登録の有無	
		トマト	ミニトマト
ベストガード粒剤	ニテンピラム	○	○
アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン	○	○
スタークル顆粒水溶剤		○	○
サンマイトフロアブル	ピリダベン	○	○
コロマイト乳剤	ミルベメクチン	○	○

※農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用基準を守り、周辺作物への飛散（ドリフト）に注意して行って下さい。

※ベストガード粒剤、アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤は同一系統薬剤となります。

表2 タバココナジラミ類に対して有効とされる主な生物農薬または物理的な作用による薬剤

（平成19年5月23日現在）

薬剤名	有効成分名	コナジラミ類またはタバココナジラミ類 に対する登録の有無	
		トマト	ミニトマト
ボタニガードES	ボーベリア バシアーナ	○	○
オレート液剤	オレイン酸ナトリウム	○	
粘着くん液剤	ヒドロキシプロピルデンブレン	○	

※農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用基準を守り、周辺作物への飛散（ドリフト）に注意して行って下さい。